

# おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー一部報第 7 号 (6 月 8 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 山形中央に大敗 山東の県総体終わる

6 月 3 日 (金) ~ 5 日 (日) の日程で県総体第二ラウンドが開始されました。3 日は準々決勝、4 日は準決勝、5 日は決勝という日程。山東は昨年に引き続き第二ラウンド (ベスト 8) まで何とかこぎつけた。山東 61 回卒の Kou Suke の代にて準優勝して以来、ベスト 8 の壁を越えられない山東。現在の 3 年生が 3 月を迎えると山東第 67 回卒となる予定なので、準々決勝勝つと 6 年ぶりとなる。相手は優勝候補筆頭の山形中央。錚々たる顔ぶれと県新人優勝の実績。Y1 でもその実力を発揮し、県総体に乗り込んできた。県内唯一の体育科を有する県立高校。それこそ綺羅星の如き人材を抱える。人数では県内最多ではないにしても、人材的には独占禁止法に抵触する可能性がある。現在監督は山東 OB の大ノリオ先生<sup>1</sup>。大ノリオ先生、山形中央に赴任してからベンチ内で生き生きしている (ように見える)。トップ選手たちを育てる (まとめる) 苦労もおありでしょうが、「打てば響く」選手を育てるやりがいは大きいと思われる。以上のようにこの勝負、山東にとって厳しいものですが、山東だってこの大会を最後のトーナメント戦にしている三年生がほとんど。この大会、そしてこの試合に賭ける思いでは負けていないつもり。「ノリオ先生、どちらが勝っても山東 OB の勝利ですね」などと友好的な言葉を発する気が起こらない。山東としては、本県一番手としての山形中央の油断に付け込み、ロースコアで締まった戦いをして相手の焦りを誘い、少ないチャンスをもににする展開が望ましい。作戦的には、システムが今はやりの 3-5-1 (というより 3-4-3 または 3-4-2-1) の山形中央のツーシャドーをどうつかまえるかが守備の鍵となる (右【図 1】参照)。攻撃では、ユートとサンペーの 3 年生 2FW がカウンターで相手の 3Back をぶち抜けばよい (というアバウトな作戦)。

場所は、米沢市営人工芝サッカーフィールド (通称米沢 SF)。会場には、多くの保護者の方がいらっしゃる。保護者の皆さま、金曜日 = 勤務日にありがとうございます！ 清野総監督 (山東サッカー部後援会名誉会長)、総監督と同期の工藤先輩、そして後藤報道局長はいつも通りいらっしゃる。山東サッカー部後援会会長の岸さんも第一ラウンドに引き続きいらっしゃった。芹川トレーナー (せりかわ整骨院)、齋藤 GK コーチもお仕事の合間を縫って駆けつけて下さった。学校からは菅間校長先生がいらっしゃって下さった。金曜日なのに役者が揃った！ あとは選手が躍動するだけ。

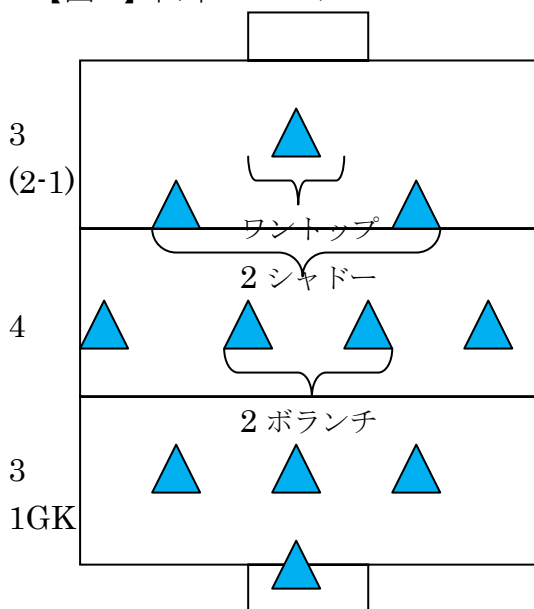
第二試合 13:30 キックオフ。試合が始まると、山東の立ち上がり、予想よりも数段良い。もっと最初から押し込まれるかと思いきや、山東のパワークに山中が面喰っているようにすら見える。「そうそう、ビビらず思い切ってやれ」とベンチから前向きな指示。奪い方良くショートカウンターから山東攻め込み右サイドにボールが渡るも、右 MF 持ち味の

<sup>1</sup> ということは、「小ノリオ」もいたということです。小ノリオさんは、中学校の教員で、私の山形一中時代の恩師でもあります (中二、中三時)。

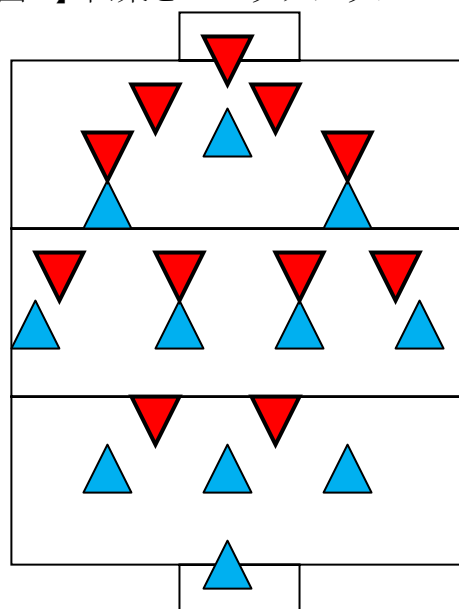
思い切った仕掛け（というより縦への馬力）を発揮することなく、インサイドへの中途半端なパスで自滅。「は？何もったいないことやってんの」と嘆いた直後、**山東 DF 裏へのダイレクトなボールに対して、2年 GK ハレル猛然とダッシュしてくる**。「ハレル、それ間に合わないだろう（マズイ、相手に先に触られるぞ）」とベンチで焦った直後、**3年 CB 7タコーがヘディングでバックパス**（ペナルティエリア PA 内の GK にキャッチさせるバックパスを選んだ）。**しかしハレルはもう PA を飛び越して出てきている**。ヘディングのバックパスはハレルからずれ、ハレルの後方に転々とする。それを**山中の選手、無人のゴールに難なく押し込み、山東もったいない形での先制を許す**。間に合わないタイミングで飛び出した GK のミス、GK のポジションの最終確認をせずヘディングでバックパスした CB のミスが重なったものですが、**GK の指示の声は何だったのか**。もし「プロテクション（相手をボールに近づけないように相手の体を遠ざけろ）！」だったら、CB は指示通りプロテクションを成功させ GK にクリアさせているか、自分でクリアすると GK の指示はおかしいと判断し CB が代わりにクリアしたかもしれない。もし「キーパー！」だったら、「自分でクリアする（からプロテクションしろ）」という意味にもなれば、「キーパーへバックパスしろ」という意味にも取れる。「任せろ！」などの指示も同様で、両方の意味に取れる（シチュエーション次第で両方の意味を有する）。曖昧な指示を出してしまったのではないか。**判断ミスを防ぐ明確なコーチングが求められた場面**でした。凡ミスがらみなので、確かに落ち込みますが、そもそもこの試合、苦しいものになると、心の準備をしていたはず。ましてやハレルはまだ GK 歴 1 年に満たない。多少やらかすのは、想定の内。しかし**山東、心の動揺がありありと見受けられ、試合が再開されると、山中に気持ち良くプレーさせて過ぎている（粘りあるディフェンスが全くできなくなった）**。完全に流れを持って行かれ、あとは防戦一方の展開に。何とか追加点を一つで抑え 0 対 2 で折り返したものの、もっと失点しててもおかしくなかった。

ハーフタイムで少し落ち着いたせいも、後半の入りも悪くなかった。今思えば山中がスロースターターなだけかもしれないが、後半 1 点返せば、1 対 2 となり、まだまだこの試合わからなくなる。しかし、**山中ボランチへのフレッシャーが甘く、コース的には甘々だったがスピードはそこそこのミドルシュートを打たれ、ネットを揺らされ、0 対 3 に。山東、監督の指示のミスで、山東ボランチが相手のシャドーの選手やウイングバック（4 の外側の二人）へのカバーの意識が大きく、相手ボランチへのプレスが滅茶苦茶甘くなっている**（【図 2】では相手ボランチに山東ボランチがプレスに行っているが実際は【図 3】）。

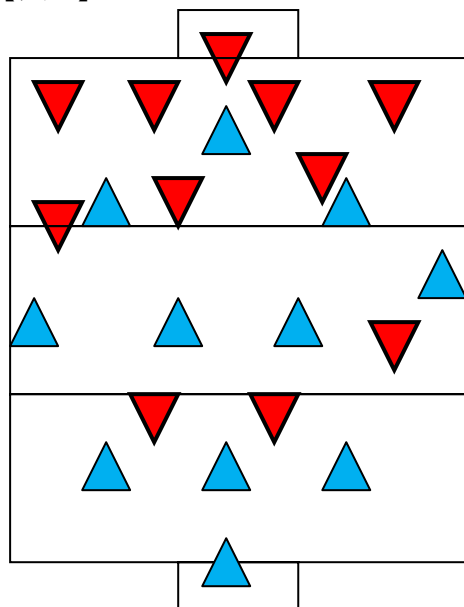
【図 1】 山中のシステム



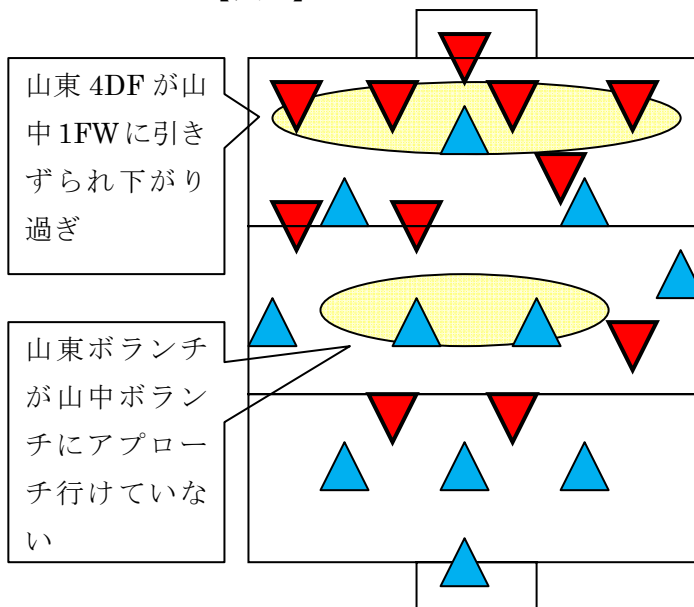
【図 2】 山東とのマッチアップ



【図 3】



【図 4】



【図 3】のようになれば、山中は思い通りボランチを中心に思うがままのボール保持ができる（【図 4】）。「こうしていたら勝てた」という類のものではありませんが、もっと細かくマッチアップについて取り決めるべきだったか<sup>2</sup>。ともかく、**ボールをめぐる 1 対 1 の勝負で完全に後手を引いており**、また、複数得点差が付いて、締まった試合をして山中の選手を焦らせるどころか、余裕を持ってボール保持されており、正直、山東にとって厳しい時間が長過ぎた。【図 4】のような mismatches を解消しようと、山東 DF ラインは何とかラインを上げるも、**攻守の切り替えのスピード・横のスライドのスピードでいずれも後手を踏んでおり、コンパクトに戦うことができなかった**。後半途中からハヤト、ユータロー、タクオなどの 3 年生を投入し、サンペーのシュートなどゴールに迫るシーンも作りましたが、**安定感抜群の山中 GK** 難なくキャッチという表現がピッタリの、本当の意味で焦らせるシーンは作れず。結局後半 4 失点し、**0 対 6 の完敗**。

3-4-3 のチームとの対戦を経験したことがなく、それに対応できないまま 70 分が終わってしまったというのが本音。山中戦用の作戦が必要だったかと後悔もあります。ただ、**最後の県総体で自分たちがやってきたことと違う戦いをして、負けた時のショックは大きい**<sup>3</sup>。伸び伸び戦った上で勝機を手繰り寄せたかった。ともかく、山東らしい粘りある戦いができずとても悔しい敗戦となりました。山中の方が数段上でしたが、スコアで 6 点差ほどの違いはなかった。要は、**監督の力不足で、スキルの差以上のスコアの差にしまいました**・・・。

結局、県総体は山形中央の 2 年ぶりの優勝となりました。山形中央の準決勝・決勝を観て、「あ～戦えばよかった」「こ～戦えばよかった」と後悔は尽きませんでした。決勝も 4 対 0 と圧勝した今年の山形中央、やはり強かった！ 宮城で 6 月中旬に開催される東北選手権、そして広島で 7 月末に開催される IH でも山形代表として頑張ってください。ノリオ先生、頼みましたよ！！ もちろん私は、山形県高体連サッカー部の専門委員長として応援に

<sup>2</sup> 疑問形にしているのは、結局「あいつはお前、そいつはお前な」などと試合前にマンマークのターゲットを決定しても、マッチアップ（1 対 1）で負けた場合、別な対応が求められる（自分のマークを捨ててでもボールにアプローチする／カバーリングに行く）必要があり、すべてを解決するわけではないからです。

<sup>3</sup> 「特別な策を講じれば良かった」という後悔より、「普通通り思い切って戦うべきだった」という後悔の方が、絶対に避けたいのです。

行きます。頑張ってくださいね。

最後のトーナメントを完敗という形で終え、3年生は悔しい気持ちを抱えたままかと思えます。が、3年生にとってリーグ戦はまだ続きます。**一応、近年の山東は、総当たり2回制のリーグ戦を一巡するまで戦い引退する、というのが流れになっている**<sup>4</sup>。3年生は**リーグ戦前期優勝**を目指し、もう一伸びしてもらいたい<sup>5</sup>。

応援ありがとうございました。宿願かないませんでした、**今年の3年生は1年生の時点から考えれば信じられないほど伸びてくれました**。頼りがいある3年生として、後輩の良き手本となっていました。とまあ、表現硬いですが、「サッカー小僧」が揃っていた。大好きなサッカー、県総体で引退じゃないことのありがたみを噛みしめながら、堪能し、前期優勝目指してもらいたい。

早速今週末、リーグ戦となります。引き続き、応援よろしくお願い致します。

**6月11日(土) Y2B 第5節 VS 新庄東 13:00~ @酒田市飯森山G (国体記念G)**

---

<sup>4</sup> 山東第64回卒のヨシタカの代から、リーグ戦一巡するまで戦い、リーグ戦前期優勝を目指すのが流れになっています。ですが、3年生はそこで引退しなければいけない訳ではありません(前監督も現監督=私も選手権まで残りました)。3年生の中で、今年選手権まで戦う(引退しない)と明言している選手が1名います。後期リーグは、1・2年生とその3年生(+α?)とともに戦うことになります。

<sup>5</sup> 最終戦は7月9日の山本A戦。